

団体名	事業等の名称	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
		事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
<p>がんばろう日本 地域をつなぐ『ふちのべ銀河まつり』実行委員会</p>	<p>がんばろう日本 地域をつなぐ『ふちのべ銀河まつり』(音楽やダンスで結ぶコミュニティー)</p>	<p>地域や参加団体からなる実行委員会を組織し、団体間の交流を図り地域の一体感を創りだします。さらに参加団体の出演する子供たちにも、地域の一員だということを認識してもらい、希薄になった隣近所を改めるきっかけ作りになればと考えております。 近隣住民の絆作り、地域のつながりを強め、大野北の活性化になるものであり、さらに、大野北の文化の向上を目指し、これを開催するものであります。</p>	<p>今年も参加者自らが実行委員となり、企画の段階から準備や運営に携わり、さらに本年度は、大野北地区自治会連合会の協力により、より地域に根ざしたイベントとして取り組んだ。淵野辺駅北口前の桜美林大学PFCにステージを制作し、大野北地区内の園児・学生の音楽等を中心とし発表会や各種サークルの競演など、幼児から年配までの方が世代の壁を越えた交流ができた。夜には、プロの演奏等で夏の夜にひと時の憩いを創りだし、広場では大学の学生や地域商店街等の模擬店が多数出店し、賑わっていた。また、会場で出たゴミは徹底した分別を麻布大学の学生サークルの協力により会場周辺のゴミはきれいに片付けることができた。</p>	<p>本年度は、大野北地区自治会連合会の協力により自治会加入PR活動を行ったり、東町自治会、山王自治会が参加団体の一員として太鼓演技を披露していただいた。また、単位自治会のお祭りなどの日程を変更していただいたことなどから、昨年より来場者が多く賑わいがあった。 参加者が企画の段階からいろいろな人とふれあい、協力し合いこの銀河まつりを成し遂げたという達成感、より地域の絆を深めることができた。 また、参加者が次年度以降もより地域に根ざしたイベントにすることと思いが一層強くなったとが、事業効果であると考えられる。</p>	<p>昨年度の反省を踏まえ、今年は大野北地区自治会連合会の協力を得ることができ、地域に根ざしたイベントにするという第一歩を踏み出すことができた。今後も、大野北地区を代表するイベントとなるよう努力していきたい。</p>	<p>H23.8.4</p>	<p>1,300,000</p>
<p>自治会法人淵野辺自治会活性化委員会</p>	<p>自治会活動活性化事業</p>	<p>地域の子どもたちに広く呼びかけを行い、各種の事業に参加してもらい、防災意識の高揚や高齢者等とのふれあい等を通じ、地域活動の楽しさ、地域コミュニティーの大切さを理解してもらおう。 また、そうした子どもたちの参加により、自治会に加入していない方にも自治会活動を理解してもらえる機会にもなる。こうした事業を実施することにより、子どもから高齢者まで、誰もが参加できる自治会活動を展開し、自治会加入促進及び地域の活性化を図っていくことを目的とする。</p>	<p>多くの事業において、子どもからお年寄りまで多くの参加を頂いた。 今年度新たに実施した高齢者を対象とした介護予防の基礎知識の講義、口腔ケアの講義、筋トレ体操は多くの参加を頂き、喜ばれた。 また、自治会活動における新たな担い手を育成することができ、子どもからお年寄りまで参加できる事業を数多く企画することができた。</p>	<p>七夕・缶炊飯やハロウィン等の事業は、近隣地域から本町公園に遊びに来る親子や散歩に来る老夫婦等誰もが注目するまでになり、地域コミュニケーションづくりができた。こうしたことは、併せて、地域を守る防犯、防災、児童の安全に一役かっていることと思われる。</p>	<p>自治会の存在自体危ぶまれる今日、魅力ある行動を企画し、自治会館では映画会から各種教室を開催し、憩いの場として提供することができた。1年間の自治会活動を写真入でまとめた会報「淵野辺自治会この1年」を未加入世帯に配布し、自治会のすばらしさをアピールし、加入促進に活用する。最後に、いつまでも決まった行事をすることは簡単で無難なことで、常に勇気をもって新しい事にチャレンジすることが活性化につながると思う。この委員会が自治会活動に大きく貢献し、自治会員の皆さんに大変喜ばれる結果となったことは、自負できるものと考えている。</p>	<p>H23.8.22</p>	<p>150,000</p>
<p>共和憩いの会</p>	<p>憩いの場(生きいきの場)運営事業</p>	<p>少子高齢化が進み、高齢者像や高齢者観が変化し、今までの福祉の担い手から地域での高齢者福祉の担い手としての役割が求められてきている。そうした背景から、新たなグループ活動として、「憩いの場」を設け、既存の趣味サークルの活動実績を活かしながら、地域住民が自由に参加できる場づくりを行い、住民間のつながり、絆を深め、地域の活性化を図ることを目的とします。</p>	<p>毎月第2火曜日憩いの場(共和自治会館)と定め12回実施 ・参加者 述べ 203名(月平均17名) ・6月 憩いの場、千歳会、思い愛ネット共同で生涯まちかど講座を開催</p>	<p>この事業の活動内容を地域に広めるための努力の年でした。 千歳会、思い愛ネット、その他自治会内のサークル所属の人たちの参加が得られ皆さんとのつながりが多くできた。絆を深め地域の活性化の足がかりができてそうです。</p>	<p>人と人とのつながりや絆が希薄になってきている現在、この計画はその人と人との絆の構築が不可欠で、その対応に自治会、千歳会、思い愛ネット等の理解が徐々にではあるが得られはじめたことを評価したい。</p>	<p>H23.8.22</p>	<p>10,000</p>

団体名	事業等の名称	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
		事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
相模原スカイハイツ おしゃべりサロン	相模原スカイハイツお しゃべりサロン事業	高齢者の体力の低下や生きがいの喪失、交流の場の不足等を解消し、元気で楽しく生きがいを感じるきっかけとなるよう仲間との交流の場を提供するとともに健康増進を図ることを目的とする。	9月から毎月1回第2水曜日に体力低下の防止と健康増進を図るために、簡単な体操を行う他クラブ活動を実施した。9月から述べ118名が参加しました。	平成20年にスカイハイツ内の高齢者を対象にボランティア6名により、気軽に集い、お話ができるようにおしゃべりサロンを立ち上げ、当初参加者は6人程度であったが、徐々に利用者も増え、現在は約20名に増えてきました。高齢者が元気で楽しく生きがいを感じるきっかけとなるよう仲間や子どもたちとの交流を深め、健康増進を図ることをができ、地域の保健・健康づくりの増進に貢献できたと考えます。	事業の主旨に賛同し、ボランティアも2名増えて地域における公共的な活動の担い手の育成もでき、事業の目的は達成できたと考えます。 今後は、更にサロンの利用者を増やし高齢者の方が元気で楽しく生きがいを感じるような事業を展開するとともに、担い手の育成にも努力し、大野北地区の保健・健康づくりの増進に努力していきたいと思います。 また、サロンに参加することで高齢者の方がより地域に対して関心をもち、近隣での助け合いを育む地域づくりに貢献できればと考えます。	H23.9.9	10,000
体育指導委員大野 北地区協議会	大野北地区地域コミュニ ティづくり及び健康づ くりの増進事業	ハイキングを通して地域コミュニティの構築に少しでも貢献できればと思います。 また、山へ登ると同じ目的を持った者同士で、達成感を味わうことが連帯感につながり、自らスポーツすることへの関心が高まるきっかけとなり、更には、新しいハイキングを楽しむクラブなどの発足につながって欲しいと期待します。	○概要:陣馬山登山口までバスで行き、山頂までハイキング登山を行った。下山後、旅館(陣溪園)にて昼食、休憩後、帰着した。 ○日時:平成23年11月13日(日) ○参加人数 36名(うち体育指導委員7名)	全員無事に完歩できた。和気あいあいとハイキングができ、同じ目的を持った同士での達成感を味わうことができた。 また、参加者がリフレッシュができ健康への意識の向上につながった。 今回のハイキングを通して、一緒に行動したことで地域コミュニティの構築に貢献できたと思います。	事故もなく、全員が完歩することができた。参加者全員が1日を楽しみ過ごせたことで今回の事業の目的は達成できたと考える。 なお、帰りのバスの中でアンケートを実施した結果、全員から次回も実施して欲しいとのリクエストがあり、事業を実施してよかったと感じた。	H23.9.9	100,000
大野北公民館ツリー 倶楽部	大野北地区地域こども ふれあい事業	本倶楽部では、大野北まちづくりセンター・大野北公民館と連携を図り、敷地内に設置されたもみの木を活用し、クリスマスシーズンに電飾を行い、地域活性化と併せ、次世代を担う子どもたちや地域の方々の憩い・ふれあいの拠点づくりの場とする。	大野北公民館ツリー倶楽部は、地域の青少年の健全な育成を願い、大野北まちづくりセンター・大野北公民館の協力により、クリスマスツリーのイルミネーション飾付けと点灯式を実施。イルミネーション点灯は、12月4日(土)から12月24日(土)の約1ヶ月間に実施した。	点灯式には、多くの地域の方々が集まった。県立相模原高校マンドリン部や桜美林大学聖歌隊、在日米陸軍軍楽隊の演奏が素敵な夜を演出し、地域活性化と併せ次代を担う子どもたちや地域の方々の憩い・ふれあいの拠点づくりの場となった。地域に密着したイベントとして大野北地区の冬の風物詩となるよう定着化を図っていきたい。	今年は、大野北地区の自治会連合会、民生委員児童委員協議会、青少年指導員、体育指導委員等により結成した「大野北地区クリスマス・イルミネーション実行委員会」が準備や運営に携わり、地域の事業として取り組むことが出来た。	H23.9.16	330,000

